

ルソーの夢

——むすんでひらいて考——（その十四）

海老沢 敏

九、ルソーの夢変奏（承前）

《ルソーの夢》が、フランスのポピュラーなロマンス《ルソーの新ロマンス》ないし、イギリスの同種の歌曲《メリッサ》の旋律にもとづいて、ヨハン・バプティスト・クラマーが変奏曲主題に改変し、かつこの主題によって十個の変奏曲を作ったものであることは、すでに詳細にあとづけをおこなったが、この変奏主題としての《ルソーの夢》は、その後、他の作曲家によっても、

おなじく変奏主題として、また編曲の対象として取り上げられるのである。

たとえば大英図書館が所有している楽譜にトマス・バトラ（一七五五—一八二三）作曲の《ルソーの夢》^{（注1）}主題と十の変奏曲がある。トマス・バトラは宮廷礼拝堂の少年合唱隊員をつとめたあと、イタリアに赴いて、著名なナポリ派のオペラ作家ニコロ・ピッチーニについて作曲を学んで帰国し、ロンドンの有名なオペラ劇場ドルリー・レインで座付作曲家をつとめた人物であった。そのあと、バトラはエジンバラに移り、音楽教師として活躍しており、多数のピアノ曲を書いているが、おそらく一八一五

年ごろと刊行年が推定されるこの《ルソーの夢変奏曲》の出版地はほかならぬこのエジンバラなのである。クラマーによる《ルソーの夢》がいかに急速にひろまっていったかを示す実例のひとつといえよう。

(注一) 《Rousseau's Dream. An air with ten variation for the Pianoforte. by Thomas H. Butler. Edinburgh, 1815? fol.》

しかしながら、バトラーのごときいわゆる群小作曲家にとどまらず、当時、すなわち一九世紀初頭にヨーロッパ中にひろく知られていた音楽家も、この《ルソーの夢》の普及伝播に一役を買っていることは注目されてよいであろう。

それは当時のフランスでハープ音楽の權威と謳われていたフランソワ・ジョゼフ・ナデルマン(一七八一—一八三五)がそのひとりである。従来一七七三年ごろパリで生れたとされてきた彼は、フランスの誇るハープ演奏家ならびに作曲家として名高い存在であった。父親のジャン・アンリは一七七〇年代には音楽出版ならびに楽器制作で活躍しており、こうした仕事も、息子によって引き継がれていくのである。彼フランソワ・ジョゼフは、著名なハープ奏者クルンプホルツの弟子であり、一八一六年王制復古時代に入

ってから宮廷ハープ奏者に任じられたほか、一八二五年には、はじめて設けられたバリ音楽院のハープ科教授の地位に就き、死ぬまでこの職にあった。

そのナデルマンに《J・J・ルソーの夢によるハープのための幻想曲と変奏曲》^(注二)なる曲がある。

(注二) 標題を全部訳出しておこう。《J・J・ルソーの夢によるハープのための幻想曲と変奏曲。レジオン・ドヌール勲章騎士、王立室内楽団作曲家、国王村首席ハープ奏者F・J・ナデルマンにより、エリザベト・オゲル男爵令嬢のために作曲献呈。作品六〇、価格四フラン五〇サンチム。パリ。ナデルマン、特許状所有者。ハープ製作者、出版者、国王御王業譜楽器商。リシュリュー街四六番地……》《Fantaisie/et Variations/Pour la Harpe/sur le Songe de J.J. Rousseau/Composées et Dédiées/à Mademoiselle Elisabeth/Baronne d'Hogguer/par F.J. Naderman,/Chevalier de l'Ordre Royal de la Légion d'Honneur, Compositeur de Musique de la Chambre du Roi et premier Harpiste de S.M./Œuvre 60. Prix 4f50c/A Paris,/Chez Naderman, Breveté, Facteur de Harpes Editeur Marchand de Musique du Roi,/Rue de Richelieu, No. 46, à la Clef d'Or, passage de l'ancien Café de Foi.》

▼ 譜 例 ①

Le Songe de Rousseau
Poco più lento.

Francis Joseph Naderman

THEME
Andantino

The musical score is written in G major (one sharp) and 3/4 time. It begins with a tempo marking of 'Andantino' and a dynamic of 'poco più lento'. The score is divided into six systems. The first system shows the vocal line (treble clef) and the piano accompaniment (grand staff). The piano part has a consistent eighth-note bass line. Dynamics include 'p' (piano) and 'pp' (pianissimo). The second system continues the piano accompaniment with a 'pp' dynamic. The third system features a 'rf' (ritardando) marking. The fourth system includes a 'cres.' (crescendo) marking. The fifth system has 'p' and 'rf' markings. The sixth system concludes the piece with a double bar line.

ナデルマン自身の肩書によって、この曲の作曲と出版とが、一八一五年の王制復古以後におこなわれたものであることが理解される。曲は〈幻想曲〉と題されたアングロ・マエストロソの^{フット・オブ・ザ・ソング}〈序奏〉（ハ長調、二分の二拍子）を伴うもので、三十六小節のこの導入部のあと、ヘルソーの夢とフランス語で訳された主題がアンダンテイーノ、ポコ・ビウ・レント、ハ長調、四分の四拍子で続くのである。前節、後節とも八小節からなるこの主題は、ナデルマンによってハーブ用にふさわしいかたちで、すなわち分散和音や上行音階にいろどられたりしてまとめられている。

（譜例①） つづく変奏曲は合計七曲あり、三連符に飾られた第一変奏、十六分音符の分散和音が高音をいろどる中に主題が見えかくれている第二変奏、六度と三度による主題が低音、高音、低音と交替し、それを十六分音符のペースジがいろどる第三変奏、ヘレガントと指示された早い長短のリズムの第四変奏、レガートの第五変奏、そしてヘミノレと訳された第六変奏は短調ではじまり、後にヘカブリッチョ・グラツィオーソの部分^{カブリッチョ}を伴っている。そしてフィナーレとしての第七変奏はふたたびハ長調をとって、華麗なハーブのびびきをびびかせてから、最後に主題を再現して終るのである。ヘミノレを含み、ハーブの

音色を生かしたかるやかな変奏曲ではある。

じっさいの曲については、現在のところ、未確認のものながら、ヘルソーの夢にもとづいた作品には、なお、次のようなものがある。

ウィリアム・ポール編曲《今まさに夕べのぼんやりとした影が溶け合い》^(注3)（一八二五年）。

T・チャントリー《ルソーの夢——ピアノのための大幻想曲》^(注4)（一八五二年）

C・ブラックショウ編曲《ピアノのためのルソーの夢》（ロンドン、一八五八年）

フランツ・シューベルト《ピアノのためのルソーの夢》^(注5)（ロンドン、一八六〇年ごろ）

（注3）《Now while eye's soft shadows blending, written and

adapted to the air of Rousseau's dream by William Ball.

1825, fol.》

（注4）《Rousseau's Dream. Grand Fantasie for Pianoforte by

T. Chantrey. 1852》

（注5）《Rousseau's Dream for Pianoforte by Franz Schubert.

Brewer & Co., London, c. 1860》^{カブリッチョ}のフランツ・

シュューベルト一八〇八—一八七八)は、有名なフランツ・ペーター・シュューベルトではなく、十九世紀ドレーズデンの音楽家で、ヴァイオリン奏者で、同地の宮廷楽団の首席奏者をつとめた人物である。

このように、クラマーの変奏主題は、十九世紀にあつて、ヨーロッパ中で、多大な反響を呼び起したが、それはこうした芸術音楽の世界でも同様であつたことがたしかめられるのである。

十、遊戯歌としての《ルソーの夢》

〈子守歌〉としての《ルソーの夢》は、前章に引用したマッカスキーの言を繰り返すまでもなく、まだみずからは歌うことも知らぬみどりごを、眠りに、そして夢にいざなうものであり、そうした〈子守歌〉の極致としてそれは評価されたものであつた。それはそうしたみどりごの状態からいくぶん成育し、そこで歌われる歌詞が理解できるような歳ごろともなると、その旋律は歌詞の意味に相応してその歌唱表現が変化し、変容してしかるべき姿が要求されるような〈歌の中の歌〉でもあつた。《ルソーの夢》

は、こうして心の中に深く染み入るような魂の歌として、十九世紀の英国やアメリカで幼児のために歌われつつけていったものである。

だが、この旋律は、もうひとつ別のかたちで子供たちの心を、そして身体を捉えていったものでもあつた。

刊行年は不明であるが、ロンドンで次のような《キンダーガルテン歌曲集》が出版されている。《キンダーガルテン・リーダー〔改訂増補版〕》。ドイツ語および英語の歌詞つき。ロンゲの入門書に収められた三十二曲の歌曲を含む。第二声およびピアノ導入の伴奏つき。J・F・ホルシツキー編。ロンドン。タヴィストック・スクエア、タヴィストック広場三十二番地、教育音楽出版者J・F・ホルシツキー^(注1)刊

(注一) 《Improved and Enlarged Edition/KINDERGARTEN Lieder, with German & English Words/Containing the 32 Songs in Ronge's Guide/Arranged with an/Accompaniment of a Second Voice/and/Piano-Forte Guidance. (Ad lib.)/by/J.F. Borschitzky./London:/Published by J.F. Borschitzky, 32, Tavistock Place, Tavistock Square, W.C./Publisher of Educational Music.》

▼ 譜 例 ①

2.

Ein schönes Andlick. The pleasant Sight.

1. Un - der - neath the vault - ed
 2. As our pa - rents, so should
 3. Peace - ful words should pass a -

1. Un - term - bin - en Him - mels -
 2. Such zum Spiel, zur Ar - beit -
 3. Gleich me - lo - di - schen Ge -

zeit gibt's Nichts köN - res in der Welt, als die
 zeit, Ein - tracht, Lieb' und Freund - lich - keit füll der
 sang, lä - net, gu - tet, Wor - le Klang, und ein

sky Fair - er light ne'er meets the eye, Than the
 we live in yface and har - mo - ny; Fol - low
 round, Like a sit - ter tramp - et's sound. Then the

Ju - grund wach - sen schN, und im Gu - ten vor - wärts
 gu - ten Kin - der Brust mit der wah - ren Her - zens
 freundlich An - ge - sieht zeigt, wer wahr und gü - tig

young, who, day - by day, Grow in ev - ry lov - ing
 their ex - am - ple kind, One in heart and one in
 way in which we walk, Oc - cu - pied with such sweet

gruß: zuhören An - blick gibt es nicht un - term
 Lust: nur im fried - li - chen Ver - ein köN - nen
 sgeist; gu - te That und fro - her Muth bleibt des

way. Oth - er sights and sounds of bliss Must in
 mind: Seek - ing each, not his a - lone, But an -
 talk, Will a - bhund in joys un - told, And our

hes - sen Non - nen - licht.
 sie recht glück - lich sein.
 he - bens höch - stes Gut.

sweetness yield to this,
 oth - ers, as his own,
 path seem pav'd with gold.

この《キンダーガルテン・リーダー》の第二曲として、ほかならぬ《ルソーの夢》の旋律が取められているのである。(譜例①)それは美しい眺め (Ein schönes Anblick. The pleasant Sight)と題されていて、へ長調と四分の四拍子を把り、大譜表で書き出され、かつ、四小節の前奏、ならびに後奏を伴なっており、それがピアノで演奏されることは、標題からも明らかである。そして《ルソーの夢》の旋律は六度あるいは三度の音程を下に伴なつて歌われるもので、それはそのままピアノの伴奏の右手となり、それにピアノの左手の低音が分散和音の動きで加わっている。さらに歌詞は、大譜表の上にドイツ語が三節、あいだに英語の歌詞がおなじく三節訳されている。

この《キンダーガルテン・リーダー》ならびにその中に収められた《ルソーの夢》の存在から、およそ次のような事実が明らかとなることだろう。第一に、この曲集は英国における《キンダーガルテン》の運動と密接なつながりをもって刊行されていること。それは標題にみられる《ロンゲ》なる名前からも、その他の理由からもしかめられるが、この点についてはやがて詳述することとなるだろう。第二に、《ルソーの夢》の旋律は、こうして、はじめから英国の《キンダーガルテン》の幼児教育体系の中に取り入れられていたこと。こうした点を明らかにするためには、フ

レーベルによってはじめられたこの《キンダーガルテン》、すなわちフレーベル幼稚園の英国への移植から語らなければなるまい。

(つづく)
(国立音楽大学)

